

更には「A1(愛)サイボード」の整備や「日本でも最も美しい村づくり」などにも取り組んで参りましたが、その中でも、村民有志による「佐井村産ホップづくり」「クラフトビールづくり」が、村内外での本格販売までこぎ着けたことは、感慨深いものがあり、私が目指した真の住民自治の一つのモデルと成り得るものであります。

こうした活動が展開されていくことで「小さくてもキラリと光る村」や「持続可能な村づくり」に繋がるものであり、在任中にこの様な成果を見ることが出来、ある一定の次代への道標をお示しできたのではないかと感じております。

これまで、佐井村むらづくり基本条例の精神を村政運営の柱に添え、村民の皆様から寄せられるご意見やご提案に耳を傾け、村民との協働の村づくりを信条とし、村政運営に努めて参りましたが、今後とも佐井村の持つ、村民一人ひとりが持つ力を「地域力」として結集し、何事にも果敢にチャレンジする気持ちを持ち続けることで、佐井村の未来が開かれていくと信じております。

地方を取り巻く環境は、人口減少・少子高齢化など、大変厳しい状況にあります。こうした中

でも、村の将来を見据え、佐井漁港内でのサーモン養殖事業を計画しているところであります。

これは、青森県が令和3年度から総事業費約50億円、計画期間を5か年として整備する予定の沖防波堤350mと、増殖場1haを活用し、試験操業を経て令和10年度の本格操業を目指すものであり、複数の民間企業の参入が期待されています。

村でも将来的に、民間の協力を得ながら事業の更なる展開を図り、同漁港での体験型観光なども取り入れ、雇用創出や地域活性化にも期待しているとところであります。

長期化している新型コロナウィルスとの闘いは沈静化しつつも、新たな変異株が確認されるなど予断を許さない状況にあります。事態が一日も早く収束することを願いつつ、昨年度からスタートした「佐井村第5次長期総合計画」に掲げる将来像の実現に向けて大きく羽ばたいていく施策を積極的に展開し、村民が「愛と誇り」を実感できる実り多い年にしていきたいと考えております。

結びに、新年が皆様にとって幸多い一年となることを心からご祈念を申し上げます。私の年頭のあいさつとさせていただきます。